

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：エクセレント西宮内保育園	種別：認可保育園
代表者氏名：大川 一則	定員（利用人数）： 120名
所在地： 〒211-0051 川崎市中原区宮内1丁目24番地7	
TEL：044-740-5106	ホームページ： https://www.heartfukushi.or.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2021年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 ハート福祉会	
職員数	常勤職員： 23名 非常勤職員 5名
専門職員	保育士 26名 栄養士 1名
	看護師 1名
施設・設備の概要	（居室数）
	（設備等）
	保育室6室、一時保育室1室、ホール1室、調理室1室、事務室 医療室1室、倉庫1室、トイレ4室、沐浴室1室、休憩室1室、ロッカー室1室
	冷暖房設備完備・1階保育室床暖房完備、空気清浄機全室設置、給食用昇降機、雨水貯留槽、防犯カメラ

③理念・基本方針

<基本方針>

・開園2年目の運営となり、法人の教育・保育基本理念である「Jの育み」の「自由に（自発的に）」「自分らしく（自分の思いを表現する）」「自適に（安心感と信頼感を持って楽しく過ごす）」「自立する（生きる力を育む）」を基本に保育を展開し豊かな保育の実現に努める。民営化された経緯を踏まえ、利用者に寄り添う運営内容に努める。法人研修や園外研修、キャリアアップ研修等の受講や園内研修を通して人材育成に注力し、法人の保育理念の共有と保育士の資質向上を図る。防災機能強化を推進として、近隣の福祉施設の連携や、多様な災害や状況を想定し総合訓練を実施し、災害時の的確な活動訓練に努める。保護者の方と子どもの育ちを共有していく。昨年8月から実施している一時保育事業については、積極的に受け入れ地域支援に努める。

<保育理念>

・子どもの人権の尊重及び子どもの権利保障・子どもの健全な発達保障

④施設・事業所の特徴的な取組

・乳児クラスは1階に保育室があり、テラスからすぐに広い園庭に出て遊ぶことができる。砂場も設置してあることで、砂場遊びを思う存分行うことができる。砂の感触や色々な形作りをしたり、砂場の横に木の家もあり、お店屋さんごっこをして保育者や友だちとやりとりを楽しんだり、幼児になると水を使用し川を作ったり、友だちと創造しながら遊びの共有をすることができる。

- ・年長は園庭やホールで、系列園3園でゲームやサッカー等をし交流会を行っている。
- ・夏野菜を育て成長を楽しみ、収穫したら給食室で調理をしてもらい食し、食べ物に感謝をする気持ちを持てるようにしている。
- ・専門職を生かし、栄養士から幼児を中心に食育についての集会を開き、野菜の話や聞いたりと食に関心を持ち楽しんで食事ができるように取り組んでいる。また、看護師は日々の健康観察に加え、コロナ禍ということもあり、手洗い指導集会を行い手を洗う大切さや手洗いの手順を歌とともに伝えたり、マスクの着用の仕方を伝えている。
- ・2階にホールがあり、乳児クラスも雨の日などホールでピアノに合わせて身体を動かしたり、巧技台を年齢の発達に合わせ設置し、手や足、頭を使い身体が上手に使えるよう運動遊び等を行っている。
- ・ホールにボルタリングやロープが設置してあり、幼児は自分の能力に合わせて取り組んでおり、手や足の力をつけている。
- ・地域支援のため一時保育事業をしており、5か月の子どもから預かり、緊急時も即対応している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月17日（契約日）～ 2023年2月20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（ 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長

職員一人ひとりが発言できる機会を設け、風通しの良い職場環境と保育の質の向上を目指している

今年度は「保育の質の向上」を重点目標として、「働きやすい職場環境」や「人間関係」を上げている。職員一人ひとりが自分の気持ちや考えを伝えられるように、まずは少人数、年代別に定期的に話し合いの場を設定している。それらの取り組みの結果、お互いの保育観や価値観を共有できるようになっており、園への要望や悩み等についても共有できていることが報告されている。この取り組みを継続することで、風通しの良い職場環境になるのではと園では認識している。園一丸となって、「さらなる保育の質の向上」に繋げることを目指している。

子どもの成長や発達に応じた環境づくりに力を入れている

法人として取り決めた各種の書式によって、子ども一人ひとりの状況を把握することを大切にしている。また、子どもの個性、生活の流れを把握し個々が満足できるように、成長・発達・興味・関心にあった玩具等を設定するなど環境づくりについてはクラス担任を中心に考え職員全体で取り組んでいる。0歳児、1歳児は落ち着いて過ごせるように、月齢に配慮して保育室内を生活と遊びの空間を分けて使用するようにしているほか、年長児には就学に向けた取り組みを充実させるなど、年齢と発達に応じた保育に努めている。

子ども一人ひとりの発達や個人差を配慮して指導計画を作成している

全体の計画をもとに、年齢別の年間指導計画、月間指導計画、週指導計画を作成している。年間保育目標には、それぞれの年齢に応じて目標・ねらい、そして月齢に応じた発達・社会性・食事や排泄を含む日常生活の計画が詳しく表記されている。見直しが必要な時は月案・週案で見直し、計画を立案している。さらに、保健や食育などの計

面も作成しており、保護者会や個別面談を通じて保護者へ説明して理解を促している。特に子どもの実態を的確に捉え、一人ひとりの発達や個人差を配慮して指導計画を作成することに力を入れている。

今後期待される点

単年度事業計画には数値目標を定め、職員・保護者にも共有し達成度合いを確認できる運用が期待される

法人では中・長期計画を2022年度～2025年度の5年間として策定している。しかしながら、単年度事業計画においては、その達成を客観的に判断できるような数値目標を掲げていないことを課題としている。年度ごとに客観的に結果の検証ができるような計画の策定とともに、職員や保護者への共有を進めることが期待される。

保育をはじめ各種の業務の標準化を図る仕組みを充実させることが望ましい

職員構成としては新任保育士2名が今年度入職し、保育士の平均経験年数は11年であり新任保育士との保育の格差を生じさせないためにも「提供する福祉サービスの標準的な実施方法」を基本に話し合いを重ね、保育士の資質向上を図るため定期的な見直しの必要性を園では認識している。各種のマニュアルに関する定期的な確認をし、「マニュアルに沿った保育や業務がなされているか」「マニュアルに保護者や職員の意見が反映されているか」などの視点も加えて、適宜の見直しなどのシステムを構築することが望まれる。

保護者アンケートの結果を具体的に活かすことを目指されたい

個人面談や保護者会、保護者アンケートをはじめ、日常では登降園時の保護者とに会話など様々な機会を通じて意向・要望・意見を把握する機会を設けている。集約した内容は、職員全体で話し合うとともに、具体的な改善を明示することにも取り組んでいる。今回行った保護者アンケートの総合的な満足度の結果は、回答者の83.3%が「大変満足」または「満足」と答え大変高い満足度が得られている。また、自由意見欄の「園の良い点」や「園の改善点」には多くの意見が聞かれている。特に「園の意改善点」で傾聴した声については「できること」「できないこと」検証し、適切に説明することが望まれる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園2年目に第三者評価を受審し、福祉人材の育成の必要性をより強く感じ、働きやすい環境づくりと職員の資質の向上に努めてまいります。また、福祉サービスの標準的な実施方法を定期的に見直しながら確立していき、子ども一人ひとりの気持ちに寄り添い、子どもたちが主体的に活動できるよう子どもの視点に立った楽しい保育に努めてまいります。今後、管理者として日々研鑽につとめ、より良い保育運営に尽力してまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり